

## 2015 香港中文大学サマープログラム報告書

文責：吉川達

7月5日（日）から14日（火）まで、香港中文大学の学生10名を受け入れ、サマープログラムを実施した。本年度で3回目。プログラムの詳細については、添付のスケジュールを参照のこと。

昨年度からの大きな変更点は、武雄高校との交流活動を新たに加えたこと、三瀬の合宿にこれまでSUSPと合同で行っていたものを単独で行ったことである。

武雄高校との交流はそもそも武雄高校がスーパーグローバルハイスクール事業に応募することから計画が始まり、結果的に事業には採用されなかったが、交流活動は実施することになったものである。武雄高校は英語授業の一環で交流を行うため、中文大の学生も日本語は使わず英語のみで意思疎通を行った。武雄高校の担当は、柴田邦博先生。

内容は、まず有志の学生12名とアイスブレイキングを兼ねた自己紹介、七夕にちなんだ短冊作りが40分程度行われた。その後コミュニケーション英語Ⅱというクラスに参加し、香港の紹介、グループに分かれてのゲームや武雄紹介、自由会話などが1時間程度行われた。その後、再度有志12名によってグループに分かれての武雄市内案内、部活動紹介が行われたが、大雨のため計画通りには進まなかった。中文大学生、武雄高校生ともに満足度は高かったようである。プログラム担当者としては、次年度以降も継続したい活動である。

三瀬の合宿については、香港プログラムだけの参加は初めてで、さらに三瀬での宿泊も初めての試みであった。中文大生に佐大生を加えた学生20名という人数は、交流活動、グループに分かれての作業を行う上では、非常にいい人数であったように感じた。三瀬の活動時もあいにくの雨で、なかなか計画通りに活動が進まなかったが、屋外の活動も雨の中でそれなりに楽しみながら行っていた。生まれて初めてミミズを見たという中文大の学生の発言が印象的であった。三瀬の活動については、三瀬の方々の交流意図や目的とこちらのプログラムの意図や目的と合致する必要がある。活動内容やどのように事前準備をするかなど、次年度に向け改善していく必要がある。

その他、授業見学や県内の見学、活動などは、過去の年度の反省を生かしながら実施したが、プログラム中ほとんどが雨天、時には豪雨であったため、実施時期自体を次年度見直す必要がある。

3月の香港への派遣と今回の受け入れで一応の本年の学生交流は終了したが、参加した佐大生、中文大生ともに最後の別れの涙が示すように、互いに強い関係を築いたことは間違いない。今年は、朝4:30の見送りに佐大生全員が自主的に参加した。今後も学生間の関係は続くであろうし、また中文大の学生に刺激を受けた佐大生が、海外に視野を向けた行動を起すことも期待される。

最後に一点課題を挙げると、毎年全学部から選抜される本プログラムの佐大生は、縦のつながり、つまり年度を越えたつながりが持ちにくい。縦のつながりを作り、過去の参加者が佐賀での受け入れ時の活動に参加しやすい環境をいかにして作るか、今後検討する。



開講式



ミニガタリンピック（鹿島）



有田ポーセリンパーク